平成 16 年 1 月の解説

【１月の天気予報から】――低気圧のコースによる雪の降り方――

１月の天気予報の中で特に注目したいのが１６日から１７日の天気でした。1月16日夕方から17日にかけ太平洋南岸に沿って低気圧が東進し、西日本から東海、関東甲信地方で雪となりました。

冬型の気圧配置で寒気におおわれた後に低気圧が八丈島付近を東進すると、関東地方で大雪になることがあります。低気圧が陸地に近いコースを通るほど降雪量は多くなる傾向がありますが、一方で気温が高くなり雨の可能性も高くなります。このため、最終的に雪になるか雨になるか、どの程度の降雪量になるかは、前日でも判断が困難な場合があります。

関東地方の前日の予報では、17日は夕方を中心に雪、降水量は数ミリ（積雪量で数センチ）と予想し、実況でも関東地方南部を中心に雪となりました。低気圧が予想よりわずかに南のコースを通過したため、東京の大手町では雪がちらついた程度でしたが、神奈川県、千葉県南部、埼玉県や東京都の西部ではアメダスで1ミリから4ミリ（降雪量で約1センチから4センチ）を記録しました。

【1 月の天候状況及び検証結果】

１月の全般的な天候状況は、短い周期で低気圧が日本付近を通過し、東・西日本の日本海側や北日本では暴風や大雪の天気となる日がありました。特に、中旬には北海道のオホーツク海側では記録的な大雪となりました。また、中旬後半から下旬前半にかけては強い寒気が東日本以西に入りました。北日本の降水量は平年を上回ったところがありましたが、東・西日本の太平洋側や南西諸島では低気圧の影響は小さく平年を下回りました。

このような天候状況でしたが、夕方（17 時）発表の明日予報の「降水の有無」の適中率は、全国平均ではほぼ例年と同じ結果（82%）でした。その中で、東海地方以東は例年に比べて良く、逆に以西では悪い適中率でした。

１月の全般的な気温の状況は、北日本では平年を上回り、東日本の一部では平年を上回ったところがありましたが、西日本、南西諸島では平年を下回ったところが多くありました。

夕方（17 時）発表の明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年に比べ 0.2℃良い結果（1.4℃）で、九州北部地方以北では例年より最大 0.3℃良い結果でした。明日の最低気温の予報誤差は、全地方で例年より良く全国平均で 1.5℃でした。

【天気予報の利用にあたって】

気象庁は、数値予報モデルの改良や予測手法の改善を一層続け、予報精度のさらなる向上を目指しています。しかし、局地的な現象などによりまだまだ技術的に予測の難しい場合がありますので、できるだけ最寄りの気象台から発表する最新の天気予報をご利用ください。